

只見の鬼をみんなでたいじ！ 釣りで田子倉湖の 自然を守る



▲雨天の中、必死に捕獲を狙いました！

8月30日、田子倉湖に放流されたブラックバスなどの外来魚を釣りで駆除するイベント「鬼たいじ」が行われ町内の親子などが参加しました。

イベントはただみ鬼たいじ実行委員会の主催で、伊北地区非出資漁業協同組合などにも協力をいただき、参加者は田子倉湖をモーターボートで周遊し只見の雄大な自然を感じつつ、この自然を守るため只見の鬼たいじを頑張っていました。

只見剣道スポーツ少年団 次こそは優勝を！

第48回全会津少年剣道大会で、個人戦男子5年生の部で目黒巧馬君が第3位、男子6年生の部で新国太陽君が準優勝の成績をおさめました。

どちらも優勝までは本当にあと少しです。ぜひ次の大会では優勝というさらに素晴らしい成績を残して欲しいと思います。

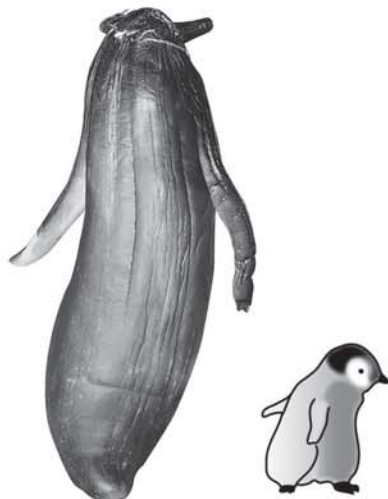


▲団体戦での優勝も期待しています

皆さんは何に見えますか？ 珍しい形の

ナスがとれました！

新国恵子さん（只見字原）の畑で変わった形のナスがとれたとご連絡をいただき、写真を撮らせていただきました。皆さんにはこのナスは何の形に見えるでしょうか？
「ペンギン」のうしろ姿に見えないでしょうか？



ブナセンター講座と自然観察会

8月1、2日の2日間、森林生態学や生物多様性科学が専門の中静透氏（東北大学大学院生命研究科教授）に講師をしていただきました。

8月1日(土)「気候変動によって 雪国の森林はどのように変わってゆくのか？」

ブナ林は積雪の少ない太平洋側ではいろいろな種類の木が混じるのに対し、積雪量の多い日本海側ではブナが圧倒的に多いです。ブナは曲げに強い材質であることから、多雪地域での雪圧に耐えることができます。また、積雪の少ない太平洋側ではブナの種子は冬季にネズミの絶好のえさになってブナの次世代が生育しにくいのにに対して、多雪地域では、冬にネズミの行動が制限され種子が食べられにくくなります。このようなことから、日本海側でブナが多くを占める森林が形成されると考えられます。

また、このように雪と関係の深い森林が近年の気候変動によって、今後どのように変化していくのかも説明していただき、ブナは木の成長や実のなり方に影響が出てきているようです。今後の気候変動からブナの生育に適した場所を予測した結果では、2100年頃になると日本ではブナの生育に適した場所が非常に少なくなることも教えていただきました。気候変動という大きなスケールの話聞くことによって、只見町の自然についてもまた違った見方ができたと思います。

8月2日(日) 「夏のブナ林を歩く！」

只見沢登山口から浅草岳や鬼が面山に残る万年雪の見える景色は興味深い景色で、歩き始めてすぐの道沿いはサワグルミやトチノキが生える溪畔林になっていますが、やがて高木のほとんどをブナが占めるブナ林に移り変わります。ブナ林の中で林床にシダが繁茂しているところは比較的新しく土砂崩れが起きた場所で、それ以前に土砂崩れが起きた場所にはユキツバキが多くみられるそうです。生息する植物からその地域の環境や成り立ちなど実際には目に見えないところまで考えられることが分かった貴重な観察会でした。



▲林床の形成時期の違いの解説を受ける参加者



ひらの 平野
えいた 詠大くん(小林)



めぐろ 目黒
みゆ 美結さん(熊倉)

虫歯の
ない子



(8月5日
3歳児健診)